

研究・調査報告書

報告書番号	担当
282	滋賀医科大学社会医学講座公衆衛生学部
題名 (原題/訳)	
Adult outcomes of binge drinking in adolescence: findings from a UK national birth cohort. 青春期の飲酒が及ぼす成人期への影響について：イギリスの出生コホート結果	
執筆者	
Viner RM, Taylor B	
掲載誌 (番号又は発行年月日)	
Department of Paediatrics, University College Hospital, London, UK. R.Viner@ich.ucl.ac.uk	
キーワード： 飲酒、出生コホート調査 思春期 成人期 イギリス	
要 旨	
<p>目的：イギリスの出生コホート調査で思春期からの過度の飲酒が成人期に及ぼす影響を明確にすること。</p> <p>研究デザイン：イギリスにおける1970年生まれの対象者を16歳（1986年）と30歳（2000年）に調査する長期的出生コホートである。</p> <p>対象者：16歳における対象者は11,622人、30歳では11,261人であった。</p> <p>方法：16歳の時点で過度の飲酒（定義：過去2週間に連続して4杯以上の飲酒をしたことが2回以上ある）と過去一年の過度の飲酒習慣について情報を収集した。30歳ではアルコール依存、乱用（アルコール依存のスクリーニング検査：CAGE questionnaire）、週のアルコール摂取、（単位数）、違法薬物の使用、心理的疾患の罹患（Malaise Inventory：ストレスレベルの評価指標）、教育、職業や社会的履歴などの情報を収集した。</p> <p>結果：対象者の17.7%が16歳の時点で過去2週間に過度の飲酒をしていた。青年期の社会経済的状況と研究前のベースライン時における状態を調整したあと、思春期の飲酒は以下のリスクを増加させると予測された。成人期のアルコール依存（オッズ比1.6 95%信頼区間1.3～2.0）習慣的な過剰飲酒（オッズ比1.7 95%信頼区間1.4～2.1）違法薬物使用（オッズ比1.4 95%信頼区間1.1～1.8）心理的疾患の罹患（オッズ比1.4 95%信頼区間1.1～1.9）ホームレス（無住居）（オッズ比1.6 95%信頼区間1.1～2.4）犯罪（オッズ比1.9 95%信頼区間1.4～2.5）不登校（オッズ比3.9 95%信頼区間1.9～8.2）資格の欠如（オッズ比1.3 95%信頼区間1.1～1.6）事故（オッズ比1.4 95%信頼区間1.1～1.6）成人期における低い社会的地位。これらの所見は過度の飲酒と習慣的な飲酒では殆ど同様の結果を示した。</p> <p>まとめ：思春期の飲酒は社会的困窮や社会からの排除などに関連するリスク行動である。これらは習慣的な高頻度の飲酒と関連が現れている。思春期から成人期への移行期における過度の飲酒は社会的不等性や健康に対して影響することが示唆された。</p>	